

光村 二年

スイミー レオレオニ作 谷川俊太郎 訳

第一次指導 (一時間扱い)

〔区画〕五区画 (㊦ 50・52・54・56・58) 絵にも番号

一 よむ (音読 五区画 五名)

二 とく (読後感の話し合い)

○ 題目 スイミー (板書 話の糸口)

・ 魚の話、一匹だけ名前があるが何。

・ スイミーの特徴 (黒い・速い)

・ ①の絵 (スイミーを指さして)

◎ ひびき (スイミーの成長物語)

・ ②の絵 (スイミーの目 必死さ)

・ この目になっているものは。(鮪)

・ ④の絵に飛び (何を見ている目)

・ ⑤の絵 (スイミーの役 魚の目)

・ 目になって大きな魚を追い出した話

○ 手引き (各段から書き出す言葉の指示)

・ 「スイミーは」で始まる文をさがして、  
したことを書き出す。

(1は題目でまっくろと書いておく)

三 よむ (2 3 4は皆で探し、5は各自で)

四 かく (視写 4・5は三つを一行ずつ)

1 まっくろ

2 およいだ

3 とりもどした

4 見つけた 言った かんがえた

5 さげんだ 教えた 言った

五 よむ (板書を音読 指黙読・指音読)

六 とく (板書を活用した話し合い)

○ 事実・区分

・ 声を出しているのはどの言葉か。

(言った さげんだ 教えた)

・ 大きな声になったのは (さげんだ)

・ よい考えが浮かんだので思わず大きな

声になったのね。よい考えが出たのは。

(かんがえた いっぱい考えた)

・ 大きな考えが浮かんできたの。

(大きな魚の振りをする)

・ 大きな魚の振りができるまでには、練

習が必要です。それが分かる言葉は何で

すか。(教えた)

・ 教えたのは誰に何を。(見つけた およぎ)

・ 上手に泳げるようになって言った言葉

は何でしたか。(目になろう 目と板書)

・ 大きな魚の目になれたのは、スイミー

がどんなだったからかな。

(まっくろ 元気をとりもどした)

・ 区分 三区画 (独りぼっちのスイミーと前後)

◎ 山 (詳しく読む段落を決める)

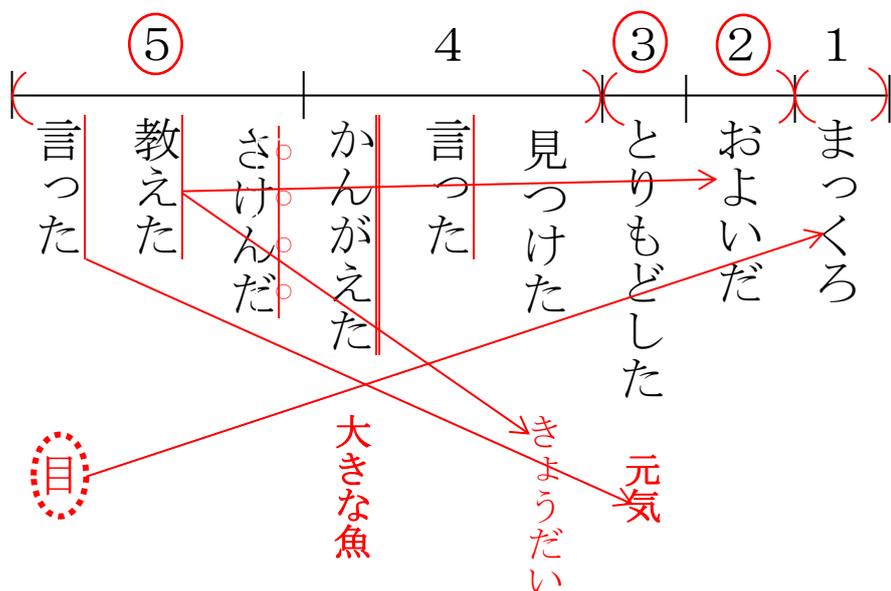
・ 詳しく読むみたいところ二つ (3・5)

○ 余韻 (スイミーに会いたいなあ)

七 よむ (全員で板書を指音読)

〔板書事項〕

スイミー



第二次指導（1／2時間）

一 よむ（音読 五名）

二 とく（復習 話し合い）

○おさらい（前時 六とく 板書）

- ・ 言ったと書いたのは何番と何番か。
- ・ 目になるうと言ったのはどっちか。
- ・ 目の色にびったりだった。何色か。
- ・ 目になる前にしたことは何か。
- ・ 何を教えたのか。
- ・ それを思いつくまで何をしたか。
- ・ 考えて考えて考えて、考えついでこと
- ・ なで、思わずどんな声になったの。
- ・ それで、小さな魚の兄弟と大きな魚を
- ・ 追いついたという話。

◎承接（本時につなぐ）

- ・ 前、楽しく暮らしていたスイミーの兄弟は、どうなってしまったの。
- ・ スイミーだけが逃げられたのは、どうして。どこへ逃げたの。
- ・ 暗い海の底に逃げたスイミーの気持ちはどうでしたか。

○手引き（視写する部分の指示）

- ・ 怖くて寂しくて悲しかったスイミーを元気にしてくれたのは何か。そこを書く。（児童 くらげ・いせえび・こんぶやわかめを）

三 よむ（指示に沿って黙読）

四 かく（視写 板書事項を参照）

五 よむ（指黙読・指音読）

六 とく（板書を活用した話し合い）

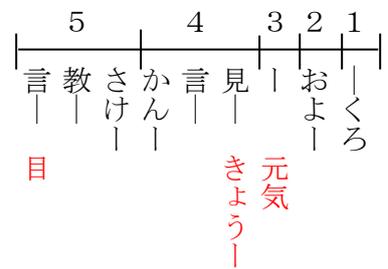
○語義・区分

- ・ にじ色 ような（みたいな） ゼリー くらげ ブルドーザー いせえび 見えない糸 ドロップ 林 やしの木 いぞぎんちやく（原本の絵本の絵を見せ）
- ・ 区分 三区分（人間が作った物 前後）

◎心（話の核心を味わう）

- ・ どんな素晴らしいものを見たか。（色 形 量 長さ 動き）
  - ・ 見て面白いのは、どんなところか。（くらげ いせえび 糸で動く魚 うなぎ ゆれるやしの木）
  - ・ これらのものを見ているうちに何が消えたのかな。（怖さ・寂しさ・悲しさ）
- 余韻（潜ってみてみたいな）
- 七 よむ（全員で板書を指音読）

〈板書事項〉



×こわい ×ぎびしい ×かなしい

にじ色のゼリーの

ようなくらげ。

水中ブルドーザー

みたいないせえび。

見たこともない

魚たち。見えない糸で

ひっぱられている。

ドロップみたいなの

岩から生えている、

こんぶやわかめの林。

うなぎ。かおを見る

ころには、しっぽを

わすれているほど長い。

そして、風にゆれる

もも色のやしの木みたいなの

いぞぎんちやく。

第二次指導 (2/2時間)

- 一 よむ (音読 五名)
- 二 とく (復習 話し合い)
- おさらい (前時 六とく 中心に)
  - ・ スイミーの見た面白いものの確認 (鰻は〓忘れるくらい長い 同様に)
  - ・ 素晴らし (美しい) ものの確認 (色〓虹・桃・緑 (わかめ) 同様に)
  - ・ 不思議なものも見たね、何。(見たこともない魚 見えない糸)
- ◎承接 (本時につなぐ)
  - ・ それから、元気になったスイミーが見つけたのが何にか。(そっくりな赤い魚 嬉しくなって声をかけると、どんな返事だったの。(大きな魚に食べられる)
  - ・ 海の楽しさを知っているスイミーは、何を考え付きましたか。
- 手引き (視写する部分の指示)
  - ・ 大きな魚のように泳ぐ練習をしているところから書いて勉強します。(児童 教えている段落を 担任は最後まで)
- 三 よむ (指示に沿って黙読)
- 四 かく (視写 板書事項を参照)
- 五 よむ (指黙読・指音読)
- 六 とく (板書を活用した話し合い)

○語義・区分

- ・ けっして はなればなれに もちば 目
- ・ 区分 二区分 (皆と一緒に泳いでいる所と皆の泳ぎを見ている所)
- 心 (話の核心を味わう)
  - ・ スイミーの考えた通りにうまくいった。何がうまくいったのか。(追い出した)
  - ・ スイミーたちが安心できる気持ちのよい海になった感じが出ているのは。(冷たい水の中、輝く光の中)
  - ・ 追い出されたのはどうしてかな。(大きな魚みたいになれたから)
  - ・ 大きな魚みたいに動くのは難しい。どこが難しいか。(離れ離れにと持ち場を守るを、右に動くときはどうするかなど)
  - ・ その動きを教えるのが、スイミーの持ち場なの。どこかな。(目)
- 余韻 (みんな、気持ちいいだろうなあ)
- 七 よむ (全員で板書を指音読)

〈板書事項〉

うなぎ 長い (尻尾を忘れる) (括弧はいそぎ― ゆれる (胴体の上で) 解説) くらげ ゼリー (ぶるぶる感) いせえ― ブルー (尻尾の動き) 色 に見― にも もも みどり (わかめ) 見―魚 見―糸 (釣り糸とルアー)

スイミーは教えた。 けっして、はなればなれ にならないこと。 みんな、もちばを まもること。 みんなが、一ぴきの 大きな魚みたいに およげるようになったとき、 スイミーは言った。 「ぼくが、目になろう。」 あさのつめたい水の中を、 ひるのがやく光の中を、 みんなはおよぎ、 大きな魚をおい出した。